

2 メールで連絡をする



2課では、日本の生活の中で連絡をする場面でのインターアクションに必要なポイントを学びます。

例1 ホームステイで帰宅時間が遅くなったとき

1. 各コマについて

1コマ目	留学生(右)は友達と深夜までお酒を飲み、ホームステイの家に帰ろうとしている。
2コマ目	酔っぱらって電車の中で寝てしまい、終点まで行ってしまった。 そのため、ホームステイの家に帰る電車がなくなってしまった。
3コマ目	留学生は朝早くホームステイの家に向かっている。
4コマ目	留学生は朝帰りをして、ホストマザーに怒られる。しかし、なぜ怒られたかわからない。

2. 話し合いのポイント

- 留学生からは次のような意見があると思います。
 - ・なぜ遅く帰ってきたら怒られなければならないのか。子ども扱いしないでほしい。
 - ・なぜ大学生なのに、門限があるのか。(寮などを含めて)
 - ・夜遅くに連絡をするほうが、迷惑になるのではないか。

ここでは、「この漫画のホストマザーはなぜ怒っているのか」について考えることがポイントです。ホストファミリーには、他の人の子どもを預かっている責任があります。そのため、このホストマザーは「事故などに巻き込まれたのではないか」「夜遊びをして勉強に影響がないか」と心配しているのではないかと考えられます。留学生の視点、ホストファミリーの視点、両方に立って考えてもらうことが重要です。

3. 話し合いを進めるときのコツ&発展させるなら……

- この状況で連絡をするとしたらどのようにするかという点について話し合うといいと思います。1つの「正解」を決めるのではなく、いろいろなアイデアを出してもらうように話を進めるといいでしょう。
- 終電を逃さないようにするにはどうするか、また、万が一、終電がなくなってしまったらどうしたらいいかについても話し合うといいと思います。
- ホームステイの場面に縛られず、相手のことを考えて連絡することの大切さを理解してもらうといいでしょう。
- ここでは、ホームステイや寮の「門限」やルールなどについて話題になる場合があります。ポイントではない部分についても学習者の「なぜ？」を大切に、話し合う機会にするといいと思います。

例2 アルバイトに遅れそうなとき

1. 各コマについて

1コマ目	留学生はアルバイトに遅れそうである。
2コマ目	電車の中から携帯電話のメールで店長に連絡をした。
3コマ目	急いでアルバイト先に向かったが、20分遅れて店長に怒られた。
4コマ目	店長に連絡がなかったと言われたが、メールで連絡をしたのに、なぜそのようなことを言われたのか、わからない。

2. 話し合いのポイント

- ここでは、自分がアルバイトなどの責任のある仕事や大切な約束に遅れそうなとき、いつ、どのように連絡をしたらよいかについて話し合うことがポイントです。
- まず、「なぜ店長は怒っているのか」について考えてもらうといいでしょう。どのような場合でも、自分が一方的に連絡しただけでは連絡したことにはならず、相手に確実に伝わるように連絡をすることが大切だということを理解してもらうといいでしょう。

3. 話し合いを進めるときのコツ&発展させるなら……

- 携帯電話のメールで連絡をすることが悪いかどうかという点に焦点をあてるのではなく、「連絡をするということはどういうことか」について話し合うように導いてください。
- 「このような状況ではどのようにすればよかったか、自分ならどうするか」について、学習者同士でアイデアを共有し、よりよいインターアクションの方法を探ります。
- アルバイトを自分たちの授業に置き換えて、万が一、遅刻や欠席をする際は、どのように連絡するかルールを確認してみてもいいでしょう。仕事やなど大切な約束の場合は、万が一遅刻やキャンセルが発生したとき、どのように連絡をしたらよいか、事前に相手と決めておくことの大切さにも気づいてもらえるといいと思います。

例3 約束の場所に向かうとき**1. 各コマについて**

1コマ目	留学生は日本人の女性（エミ）と12時に待ち合わせの予定。
2コマ目	電車で待ち合わせの場所に向かっている途中で、エミから携帯電話のメールに遅れるという連絡がある。
3コマ目	エミから状況を連絡するメールが次々と届く。
4コマ目	エミから数分置きにメールが届き、留学生はメールの多さにうんざりしている。

2. 話し合いのポイント

- ここでは、エミが約束に遅れるときに、なぜこのように多くのメールを送ったかについて話し合うことがポイントです。
- 「遅刻をすると相手に迷惑をかける」「相手に心配をかけないように連絡をする」というように、相手のことを気遣う気持ちに気づいてもらえるといいでしょう。

3. 話し合いを進めるときのコツ&発展させるなら……

- 「友達／知り合い／先生との待ち合わせで遅れそうだったら、どうする？」「大切な仕事のアポイントメントに10分遅れそうだったらどんな気持ちになる？」「自分の国／日本のビジネス場面なら？」と、さまざまな相手・場面について、遅れる側の気持ち・対処方法について考えてもらうといいでしょう。学習者間で、さまざまな意見・アイデアを交換することで、遅れることについての考え方、価値観に多様性があることに気づいてもらえるといいでしょう。
- 国や文化によって、「遅れることについての考え方」「連絡についての考え方」は大きく異なります。その国の社会事情などの影響もあるので、なぜそのような考え方になったのかということを考えて、話してもらうといいと思います。